

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 博物館展示費（任意・単建）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

岐阜県博物館 総務部 管理調整係 電話番号：0575-28-3111（内250）

E-mail：c21804@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 41,019 千円（前年度予算額：38,000 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	38,000	12,165	0	3,192	0	0	0	0	22,643
要求額	41,019	12,074	0	2,512	0	0	0	0	26,433
決定額	35,000	10,907	0	2,512	0	0	0	0	21,581

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

岐阜県のかげがえのない郷土の文化財や豊かな自然を守ることを目的に、総合博物館として、特別展、常設展、マイミュージアムギャラリーにより広く博物館資料を県民に紹介します。

（2）事業内容

（ア）特別展開催費（2回 ※人文分野1回・自然分野1回）

令和3年度の岐阜県博物館の特別展は、次の2つです。

- ・特別展「薩摩の陶と刀」（仮）
- ・特別展「今日から防災！過去を知り未来へ備える」（仮）

（イ）特別展準備費

- ・令和4年度に実施する特別展の調査・研究をします。

（ウ）マイミュージアムギャラリー展示運営事業費

- ・県民が長年にわたって収集・所蔵するコレクションや資料などを、生涯学習の成果発表の場として広く公開・展示します。

（エ）企画展開催費（2回 ※人文分野1回・自然分野1回）

令和3年度の岐阜県博物館の企画展は、次の2つです。

- ・企画展「ライチョウ」（仮）

- ・企画展「岐阜の縄文遺跡」(仮)

(オ) 常設展示費

- ・常設展示資料の借用、展示品の管理保全、展示に関する研究者への協力依頼、調査収集、資料評価委員会の開催。
- ・視覚的にわかりやすい展示や体験できる展示資料の製作に努めます。
- ・博物館学芸講座の開催。

(カ) 全県展開事業

博物館機能の全県展開として、次の展示事業等を実施します。

- ・図書館連携企画
「千磨百錬 よみがえる赤羽刀 (その2)」(仮)
「明治の岐阜」(仮)
- ・移動展開催費 (自然分野1回)
「名前のヒミツ教えますー植物に隠された物語ー」(仮)
- ・民間施設連携 (モレラ岐阜等における連携事業の実施)
- ・岐阜大学連携企画
「恐竜の復元模型」(仮)

(キ) 展示資料購入費

- ・古文書など、人文系に関する資料を購入します。

(3) 県負担・補助率の考え方

県単独事業として実施

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,520	資料借用謝金、講師謝金、
旅費	2,232	資料調査、借用搬入・搬出、講師費用弁償
需用費	9,467	展示用消耗品、講師会議費、ポスター・チラシ等印刷製本
役務費	2,012	ポスター・チラシ等発送、輸送保険料
委託料	21,734	美術品等輸送・展示委託
使用料	484	資料借用、画像使用料
備品購入費	3,570	展示資料購入
合計	41,019	

(1) 特別展開催費	20,674 千円
(2) 特別展準備	300 千円
(3) マイミュージアムギャラリー展示運営事業費	783 千円
(4) 企画展開催費	700 千円
(5) 常設展示費	2,958 千円
(6) 全県展開事業開催費	9,604 千円
(7) 刀剣（赤羽刀）修復研磨費	3,000 千円
(8) 展示資料購入費	3,000 千円

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の意創造・伝承・発信

① 「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承

- 伝統文化の担い手の育成・確保など次世代に文化をつなぐ取組みを充実するとともに、新たな才能の発掘と育成を推進する。

(社会教育施設(県美術館・県博物館等)の活用)

- ・ 県の自然、歴史、伝統、文化、技を積極的に発信するため、博物館機能を(全県展開する。)強化する

事業評価調書

新規要求事業
 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
地域の自然、歴史、伝統、文化、景観などの「ふるさとの財産」を保全・保護するとともに、常設展、特別展及び教育普及活動を通して、文化芸術に親しむ機会を充実させ、県民参加型の創意工夫を凝らした文化施設運営を目指します。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
博物館入館者数	45,984 (H24)	133,219 (H29)	249,375 (H30)	158,642 (R1)	200,000 (R6)	79.32%

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - (1) 特別展の開催
 - 1) 特別展「光秀が駆けぬけた戦国の岐阜」
令和2年9月18日～令和2年11月15日
 - 2) 特別企画展「みんなの恐竜学」
令和2年12月12日～令和3年2月28日
 - (2) 常設展の定期的な更新
 - (3) マイミュージアムギャラリー展示
郷土にゆかりのあるコレクションについて、年6回の展示会を開催
 - (4) 特別展準備
次年度以降の特別展等の調査を実施
 - (5) 展示資料の購入
恐竜・古生物標本に関する資料の購入。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
常設展示の部分改修と定期更新、年2回の特別展とマイミュージアムギャラリー展等を開催し、郷土の価値を県民に伝えることができた。さらには、次年度以降の企画展等の調査研究を円滑に行うことができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	特別展や常設展等で紹介することで、郷土の価値を保全・形成・継承することの重要性を県民の皆さんに理解していただく。このような事業は公的な機関でなければ難しく、事業の必要性は高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	平成24年度以降、全体の入館者数は増加傾向にあることから、事業効果は得られている。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	郷土の貴重な資料の展示手法などを検討することにより資料価値をよりわかりやすく県民に伝えることができた。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 入館者数は天候等に左右されやすく、公共交通機関でのアクセスも恵まれているとは言い難い。これらのハードウェア上の課題はすぐには解決が難しい。入館者数増を目指し、特別展内容の検討や開催時期及びその広報戦術のさらなる検討に加え、体験的な展示や催し物の開発・改良など、考えられる方法について具体化を図る。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県立の総合博物館として、郷土の素晴らしさを継承する使命を持っており、当館が担う役割は大きい。常設展の定期的な更新とともに、特別展開催にあたっては、県民のニーズを調査し、開催方法、多様な年齢層への対応、効果的な広報の在り方を見直す。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	